

複合フローリング施工説明書その②

--- 木製下地の場合 ---

全体の流れ//

①下地処理→②仮並べ→③釘・接着剤→④施工上の注意点→⑤施工後の注意点→⑥その他注意点

①下地処理//

- ・下地材には 12mm 厚以上の耐水合板をご使用下さい
- ・含水率は 12%以内にして下さい
- ・大引は 90mm (3 寸) 角以上、根太は 45mm 角以上の乾燥材をご使用下さい
- ・大引の間隔は 909mm (3 尺)、根太の間隔は 303mm (1 尺) として下さい
- ・床を木口継ぎにする部分の下に必ず根太がくるようにして下さい
- ・重量物を置く場所、ひんぱんに出入りする箇所などは根太の間隔を 150mm 位に巾をせばめて下さい
- ・床下の湿気による突上げと腐れ防止のため、床下には必ず建築基準法に基づく通風口 (5m 以内に 300cm²以上) を設けて、風通しをよくして下さい
- ・雨濡れなどの湿った状態の下地には施工しないで下さい
- ・下地の不陸のないことを確認して下さい。下地合板の継ぎ目の段差は 0.3mm 以内にして下さい

②仮並べ//

- ・弊社のフローリングは天然木を使用しているため、杳理や色に違いがあり、必ず仮並べをして全体のバランスを確認して下さい
- ・特に気になる杳理や色が入った材料は、目立たない場所に貼る等の工夫をして下さい

③釘、接着剤//

- ・施工は必ず釘と接着剤を併用して下さい
 - ・接着剤はビード状に塗布して下さい。ビードの高さは 6mm が標準です。糊の剥がれによる床鳴り防止のため根太上の位置にしっかり塗布して下さい
- ※推奨接着剤 通常・・・コニシ KU928
湿度の高い環境の場合・・・コニシ E350

④施工上の注意点//

- ・フローリングは下地に完全密着させて釘止めするため、下地の不陸、段差はそのままフローリング表面の段差、突上げの原因になります。下地合板の継ぎ目とフローリングの継ぎ目は、重ならないようにご注意下さい
- ・製品の施工仕上寸法は巾 120mm、長さ 909mm です
- ・施工する床面の寸法を割り出し、必ず右隅から貼って下さい

- ・釘の打ち込み角度は 45 度から 60 度で、打ち込み深さ調節は頭部が残らないか僅かに埋まる程度にしてください
- ・捨て貼り下地でも根太の位置に釘を打つようにしてください。釘の足が根太に入るようにしてください
- ・頭部が残った場合はポンチで打ち沈めてください
- ・突付部分は 0.1mm の隙間を空けてください。木材は吸湿すると含水率が 1%変化する毎に、長さ寸法が 0.02mm 変化します

⑤施工後の注意点//

- ・フローリングの表面に擦り傷が付かないよう養生シートを敷き、床用養生テープで止め、その上にダンボールや合板を敷いて養生してください
- ・養生テープは接着が弱いテープを使用してください。長期間接着を続けると、糊残り、変化、またはフローリング表面の塗装面にテープが付着するので、注意してください
- ・貼った後の、養生シートの上には物を置かないでください。また、足で踏まないでください
- ・室内の換気は十分に取ってください。特に夏場の高温度や冬場の急激な暖房にもご注意ください
※自然塗料仕上げ商品の場合は、別紙「自然塗装仕上げフローリングの取り扱いに関する注意事項」をご覧ください
- ・養生が不十分ですと表面や木の目に埃やチリが残り、通常のクリーニングでは取れなくなる事があるため、特に色の濃い商品の養生には十分ご配慮ください

⑥その他の注意事項//

- ・床材は開梱後すぐに施工してください。雨濡れしたものは使用しないでください
- ・下地は濡れや湿気のないことを確認の上ご使用ください
- ・雨天など湿気の高い天候下では施工を控えてください
- ・床下の風通しをよくしてください
※風通しが悪いと湿気が高くなり、床材の盛り上がり、腐れなどの原因となる事があります